

2019 年度(平成31年度)学校評価自己評価表

大成館中学校区	校番 29	福山市立本郷小学校
最終更新日		2019年(平成31年)4月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 □子どもが進んで授業をつくるための教職員研修を充実させてほしい。 □関係機関と連携し、教職員が信頼される学校をつくってほしい。 □保護者、地域と連携し、健やかな子どもの育成を実現してほしい。	児童生徒の現状 ▲基礎学力の定着「表現力」「書く力」に課題がある。 △体力面の課題が改善しつつある。 △あいさつや無言清掃は、小中一貫した取組の成果が見られる。 △地域交流により、郷土への愛着心が高まっている。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) 相手意識をもって、自分の言葉で表現する力 ～コミュニケーション能力と思いやり～	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 変化の激しい社会をたくましく生きる子ども (1) 基礎学力を身に付け、自ら学び続ける子 (2) 運動・食育習慣を身に付け、活力のある生活ができる子 (3) 規範意識を身に付け、思いやりのある言動ができる子
		中学校区として統一した取組等	(1) 学力向上…自ら考え学ぶ児童生徒の育成、家庭学習の定着 (2) 体力向上…各校独自課題の克服、食育の推進 (3) 連携教育…規律、小中歌声交流会、各種学校行事の交流、ふるさと学習の推進

III 自校

ミッション
将来を担う確かな「生きる力」をつけ、社会に貢献できる児童の育成する学校
ふるさと本郷の人々・自然・歴史を大切に、ふるさとを誇れる児童の育成する学校

学校教育目標
心豊かに自立・貢献・感謝する児童の育成
～考える子 がんばる子 やさしい子 よく聴く子～

現状
＜児童生徒＞
○友だちとの学びをつなげようとする意識が高まった。
○自分からすすんで大きな声で挨拶できる児童が増えた。
●「基礎・基本」定着状況調査の結果から「書く力」に課題がある。
●問題文から何を問われているかを的確に把握し、学習した知識を活用することが不十分である。
＜授業＞
○板書計画を1日1時間以上作成したことで、めあて、主発問、まとめが一致する授業づくりができつつある。
●児童のつぶやきや考えを授業に生かし学び合う授業に向けた授業改善が必要である。
●児童は、自分の考えを出し合っているが、深める授業になっていない。
●必要な情報を適切に取り出し、条件に応じて書くことが十分でない。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	コミュニケーション能力	問題解決力	思いやり	主体性・積極性	
めざす子ども像	低	相手を見て反応しながら聴き、自分の考えを伝えることができる。	分からないことや困ったことがあった時、友だちや周りの人に聞き、解決できる。	相手の気持ちになり、行動することができる。	自分のやるべき役割をしっかりと行うことができる。
	中	相手を見て自分の考えと比べながら聴き、自分の考えを伝えることができる。	分からないや困ったことがあった時、自分で調べたり、周りの人に聞いたりして解決できる。	相手のことを思いやり、進んで周りの人に親切にできる。	自分でやろうと決めた目標に向かって、積極的に活動することができる。
	高	相手の意見を尊重しながら聴き、自分の意見を持ち、伝えることができる。	疑問に思ったことから課題をみつけ、調べたり周りの人と協力したりして解決できる。	相手の気持ちを考えながら自己表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。	仲間との関わりの中で、自分の役割を自覚し、積極的に活動しようとしている。
研究	教科等	体育科 道徳			
	主題・内容等	自ら学び、かかわり合い、共に高め合う授業の創造 ～体育科・道徳の時間を通して～			
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、互いに関わり合い、共に高め合うことができる授業 ・自分の考えを相手に伝えることで、思考を深めていくことができる授業 				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立本郷小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(月 日)				最終評価(月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	主体的な学びによる思考力・表現力を育成する	★	継続	国語科「読むこと」の領域の学力向上を図る。	○授業の中で、自分の考えを書く活動を設定する。 ○「読むこと」の宿題を出す。	○単元末テスト、学期末テストで「読むこと」の領域の平均が80点以上の児童 ・低学年85%以上 ・高学年80%以上									
				算数科「数学的な考え方」の学力向上を図る。	○自分の考えを図や式、ことばで書く活動を設定する。 ○多様な問題にふれさせる。(朝タイム, 授業等)	○単元末テスト、学期末テスト「数学的な考え方」の領域の平均が80点以上の児童 ・低学年80%以上 ・高学年70%以上									
4	規範意識を身に付け、思いやりの心を育てる	★	継続	自分の役割を自覚し、無言で時間いっぱい掃除をすることができる。	○掃除の分担を一人一役で明確にし、振り返りを行う。 ○縦割り班掃除を行い肯定的に評価する。(児童会目標とのリンク)	○児童アンケート、教職員アンケートの達成率、80%以上 (7月, 12月)									
				規律ある学校生活ができる。	○児童会によるあいさつ運動を実施、模範児童を表彰する。	○大きな声であいさつができる児童の割合、90%以上									

4	運動に親しみ体力を向上させる	継続	各学年の重点目標の向上を図る。	○体育科の授業で準備運動に、サーキット運動を取り入れる。 ○児童が目標を持って、意欲的に取り組めるがんばりカードを活用する。	○学年重点目標が新体力テスト全国平均値以上の児童の割合60%以上									
			地域とのつながりを深める。	○児童に地域行事への参加を呼びかける。 ○各学年、地域と連携した学習を行う。	○地域行事に年1回以上参加する児童の割合90%以上 ○各学年年1回以上実施する。									
3	保護者・地域から信頼される学校をつくる	新規	児童と向き合い、授業づくりを行う時間を確保する。	○業務改善の取組を全校ですすめる。 ○委員会、会議の見直し適正化を図る。	○主任会で、月1回課題と取組を確認する。									

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	達成度	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。